

みんなに発信したい！ 自然豊かな平石で丈夫な体と豊かな心を育てる保育



社会福祉法人 わたり福祉会
さくらみなみ保育園

栽培とクッキング&地域交流

<取り組んだこと>

- ▶ 年間を通して保育園の畑でたくさんの野菜を育てました。採れたての野菜をそのまま食べたり、絵本のまねっこをして大根抜きをし、楽しみました。その大根を担任が子どもたちの前で切って見せ、ルッキングをしました。その後給食室でゆでてもらって、昼食で食べました。
- ▶ 地域交流では作ったおみこしを担いで、隣の施設に披露しに行きました。

<保護者さんの声>

- ▶ 野菜が苦手な子がとても喜んで食べたことを伝えると「えっ？食べたんですか？」とびっくりする姿がありました。楽しい経験と調理される過程を見たことで、安心して食べることができたのだと思います。

<子どもたちの変化>

- ▶ 自己主張が出てくる年齢は、好き嫌いも多くなってくる時期ですが、みんなで抜いてきた大根は特別で、どの子も喜んで食べる姿がありました。
- ▶ おみこしを見て泣いている利用者に気付き、“自分たちは利用者さんを喜ばせることができる”と気付けた様子で「また行こうね！」と話す姿がみられました。



伝統文化を大切にする保育

- ▶ “荒馬”（年長児）“竹おどり”（年中児）“カンチョロリン”（全園児：盆踊り）“和太鼓”（職員）など東北地方に伝わる民舞を保育に取り入れました。各行事で民舞を披露したり、さくら保育園と交流し、荒馬を見せ合いました。職員もワークショップで和太鼓のプロによる指導を受け、夏まつりで披露しました。

<保護者の声>

- ▶ 今年度は行事を以前のように戻しました。その結果、小さいクラスの保護者さんにも園で大切にしている伝統文化について実際に見てもらうことができました。「あれがいつも家でやっていた荒馬なんですね！初めて見れて嬉しくてビデオを撮っちゃいました。」という声が聞かれました。年長児の親からは、代々伝統で取り組んでいるため、「荒馬を踊る年になったんだなと感動しました」という声が聞かれました。

<子どもたちの変化>

- ▶ ずっと憧れて見てきたものを自分たちが取り組むことに誇りを持っています。さくら保育園との交流では刺激を受け「二つとび、かっこよかった」「四つとびやってみたい！」とステップや並び方の順番など、自分たちで考えながら踊りに変化をつけ、バージョンアップをし、取り組みました。



造形美術で表現する楽しさを

<取り組んだこと>

- ▶ 収穫したキュウリや稲など身近なものを観察して、絵に描き表現してきました。節分を経験した後は、オニを退治しているつもりで豆に見立てたシールやタンポで遊びながら表現しました。大きかったオニを筆で描き、細かいところはサインペンで描いたりと年齢に合った表現の仕方をして楽しみました。

<保護者の声>

- ▶ 0歳から5歳児クラスまでの絵や制作した作品が園内にズラリと飾られた作品展示会。親子と一緒に油粘土で作った作品をみながら母「〇〇ちゃん、これ何作ったの？」 子「それはねー、おにぎりなの」 母「おいしそうなのいっぱいだね～」と作品を通して話す姿が見られました。我が子が自由に思いっきり表現した作品から、会話も弾み楽しい様子や成長が感じられたと思います。

<子どもたちの変化>

- ▶ 様々な素材に触れる中で、描くことに苦手意識がある子も、ペン（線）だけでなく筆（面）で描くことで楽しめたり、一枚の紙からハサミやのりを使って作る人間パズルに取り組むことで、作る楽しさを知ったりとさまざまな素材を使い経験することで、空き箱工作や絵を描くなど、朝夕自由に取り組む姿が多くみられるようになりました。



保育の見える化 ～ドキュメンテーションの取り組み～

<取り組んだこと>

- ▶ 子どものステキだなと思った場面を写真に撮り、日誌として保護者に発信しました。また、職員の学びの機会として、子どものステキだなと思った場面や成長を感じた場面などを毎月行われる乳児・幼児それぞれの部会の中でミニ学習として取り入れました。総括会議の際の実践報告でもドキュメンテーションを取り入れ、子どもを見る視点についても、職員間で学び合いました。

<保護者さんの姿>

- ▶ 写真があると様子がわかりやすく、じっくりと見ていく姿がありました。また、我が子と共に写真を通して会話をし、活動の様子について話す姿が多くみられました。

<職員の変化>

- ▶ 可視化することで若い職員にも理解しやすく、自分の保育を客観視できるようになる姿が見られました。

子どもの様子 りんご・すいか組 5月1日(月) 記入者 O

人参の種まき 🌱

たねをいれたら
おふとん(土)
かけるんだね



やさしく
かけよう



ふとんをかけ
るんだよね



あ！
あったあった



とれた！！



みて！！
こんなにとったよ

今日は、りんご、すいか組合同で人参の種まきをしました。用務員のYさんに種まきの仕方を教えてもらい、「おふとん(土)かけるんだよね」「やさしくだよ」等話しながら、優しく土をかけていました。すいか組がりんご組の秋に種まきした絹さやの収穫をし、すいか組の子たちが、筋とりをしてくれました。

以前もやったことがあるため、「つめで やるといいよね」「あ！とれたよ」「かんたん」等、話す子ども達です。筋とりした絹さやはお昼に食べました。



とれたよ

まとめ

- ▶ **園行事**や**地域交流**など少しずつコロナ前に戻すことができ、地域の方や異年齢、そして保護者同士も関わる機会が増えた年でした。その中で感じたことは、大人も子どもも人間は人と人のかかわりの中で育つということです。毎日友だちと一緒に過ごし、泣いたり、笑ったり、力を合わせたりすることを通して心が成長します。保護者同士も懇談会や送迎の際、お互いの悩みや子どもの姿を通して話す機会が増え、共感し合う姿がよく見られるようになりました。
- ▶ **自然豊かな環境**の中で駆け回り、**田畑の栽培**や**クッキング**で安心安全なものを食べ、丈夫な体が作られます。絵本に出てくるそら豆を育てたり、給食にインゲン豆が出てくると同じ豆に気付いたり子どもの気づきを大切に、実体験に取り組んでいきたいと思います。
- ▶ **ドキュメンテーション**の取り組みでは、より深く子ども理解ができるように職員の学ぶ機会を増やしました。子どもを見る視点や自分の保育を客観視する、日常の保育の中で素敵な場面を職員同士で共有する姿も見られるようになり、引き続き取り組んでいきたいと思います。
- ▶ 子どもたちの興味・関心を広げていけるよう、子どもも大人もワクワクドキドキするような**楽しい保育**をこれからも続けていきたいと思います。

